



充実した一日

被爆74年を前に

あいさつする松尾市議



世界で初めて原爆が極的に取り組むべきで降下されて早や74年が過ぎ、その風化が心配される。以前この巡礼記で触れた山口市仁保にあるカトリックの女子修道会カレルメル会。シスターの二人、長康子さんは広島原爆被害者だ。彼女が被爆体験を書いた1冊の小冊子「原爆体験記」。

原子力発電などを一概に反対するつもりはないが、もっと初の被爆国として各方面に積



原田神父の手料理を味わう(右端が神父)

「山口のちの会」の支部で、人のいのちの問題について色々考え、活動するグループのことである。しかし、近年会員の高齢化が目立ち、ほとんど休業状態になってしまった。そこで一旦運動を止め、活動費の残金を、広島市の平和記念聖堂に寄付することにした。事務局を担当してきた市議会議員の松尾一平さんから平和記念聖堂に関する下松カトリック会の原田豊己神父(岡山ノートルダム大学学長兼務)に手渡すイベントが先日、ミサの後行われた。広島大出身である松尾市議は、今も8月6日の広島原爆記念日には仲間と広島に集まり広島について語り合っている。簡単なことのようにだが、声高に宣伝する訳でもなく人知れず平和活動を続けておられるのは好感がもてる。



白浜司教

「いのちの会」の支部で、人のいのちの問題について色々考え、活動するグループのことである。しかし、近年会員の

高年齢が目立ち、ほとんど休業状態になってしまった。そこで一旦運動を止め、活動費の残金を、広島市の平和記念聖堂に寄付する

のちの会」は全国組織作ったピカドンの紙芝居などは下松市の図書館に委託し、関心のある人はいつでも使用出来るので利用してほしい。さて、贈呈式の間行われたミサの後には原田神父の手料理で食事が開かれ、防府教会の司教公式訪問の後広島へ帰る白浜司教も合流し、盛り上がった。一般の方々には「神父」とか「司教」が判りにくいと思うが、簡単にいえば日本を16の教区に分け、その総責任者が司教である。司教はローマ教皇から任命される。司教に抜擢されただけのことはあり、お会いしてみると実に温厚で、その中にも生涯をイエス・キリストと共に神に捧げる知識と行動力が感じられる。司教にお会いし、自分自身を振り返ってみると「日曜信者」と言われるように、日曜のミサの時だけは信者だが日々の生活はややもすれば信仰を感じさせない。信仰に生きるとは、自分勝手にそのつもりになっているのではなく、具体的に生活の中で継続しなければ意味がない。

「山口のちの会」の解散は残念だが、会



深紅のカサブランカ